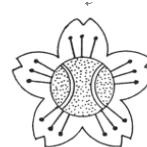


令和8年5月29日発行

横浜市立六浦小学校学校だより



むつうら



本校教育目標「つながるなかま まち いきいき 六浦っ子」

好きは学びを深める土台

校長 内野 泰久

若葉がいっそう鮮やかさを増し、初夏の訪れを感じる季節となりました。校庭を渡る風や木々の緑の深まりからも、季節の移ろいを日々感じる頃となりました。

本校では運動会を秋に開催しているため、春から初夏にかけては、学級づくりが一段落し、各学年の教育活動が本格的に動き出す大切な時期となります。5月末からは、2年生・3年生の「まちたんけん」、5年生の「愛川宿泊学習」、4年生の「野島宿泊学習」、6年生の「租税教室」や「東京見学」など、体験的な学習が続きます。子どもたちは、地域や社会、自然と直接関わる中で、多くの気づきや発見を得ていきます。愛川での藍染体験や野外調理、野島でのいかだ体験など、本校の特色である「実際に見て、触れて、体験して学ぶ」活動は、子どもたちの心に深く残る貴重な学びとなります。教室での学習だけでは得ることのできない経験を重ねることで、知識と体験が結びつき、より豊かな学びへとつながっていきます。

私は、学びの基本の一つは、「好き」「面白そうだ」と感じる気持ちを育てることにあると考えています。日本には古くから「好きこそものの上手なれ」という言葉があり、興味をもったことに対しては自然と意欲が高まり、学びが深まります。さらに、中国の古典『論語』には「知之者不如好之者 好之者不如樂之者」（これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず）という言葉があります。これは、知るだけでなく、それを好きになり、さらに楽しむことの大切さを示したものであり、学びに向かう姿勢をよく表しています。学校でのさまざまな体験活動が、子どもたち一人ひとりにとって「好き」や「楽しい」と感じるきっかけとなり、自ら進んで学びを深める力へとつながっていくことを願っています。私たち教職員も、子どもたちの思いを大切にしながら、その成長を支えてまいります。